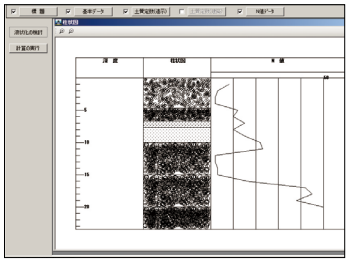
液状化の検討

液状化に対する抵抗率FLを計算し液状化の判定を行います

価格 **80,000円**（税抜）

適用基準・参考文献

■道路橋示方書・同解説V 耐震設計編（日本道路協会）
■杭基礎設計便覧（日本道路協会）
■道路橋の耐震設計に関する資料（日本道路協会）
■建築基礎構造設計指針（日本建築学会）
■建築基礎構造設計例集（日本建築学会）

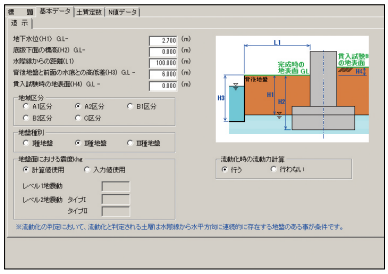


●土質定数入力画面（道示）

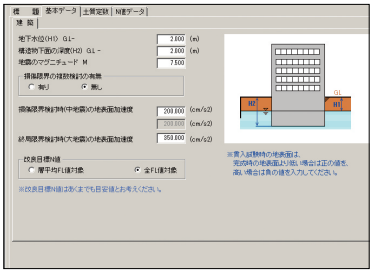
製品概要

本システムは「道路橋示方書・同解説V耐震設計編」「建築基礎構造設計指針」に基づき、液状化に対する抵抗率FLを計算し、液状化の判定、液状化指数の計算を行います。「道路橋示方書」の場合、流動化の判定を行い流動力の計算も行います。

●基本データ入力画面（道示）



●基本データ入力画面（建築）



パフォーマンス

計算結果が画面でひと目でわかります。
また、画面上で計算値を変更することも可能です。
早急な検討に威力を発揮します。

機能詳細

液状化の検討

「道路橋示方書」準拠の場合

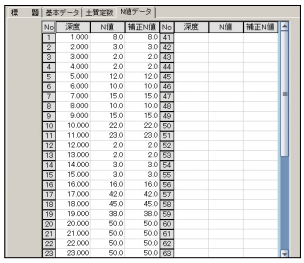
■地震時の液状化の判定を行い、レベル1、レベル2（タイプⅠ・タイプⅡ）の低減係数Deを計算します。
■液状化に対する抵抗率FLを元に、液状化指数PLの計算を行います。
■流動化の判定を行います。
流動化が生じる地盤とは次の通りです。
❶臨海部において、背後地盤と前面の水底との高低差が5m以上である護岸で水際線から100m以内の範囲にある地盤
❷液状化すると判定される層厚が5m以上の砂質地盤が水際から水平方向に連続的に存在する地盤
■流動化時、レベル1、レベル2（タイプⅠ・タイプⅡ）の耐震設計地盤面を設定します。
■流動化が生じた場合、流動力の計算を行うことができます。
■地層数は50層、N値は80個まで設定できます。
■地盤面における震度khgが任意入力できます。

「建築基礎構造設計指針」準拠の場合

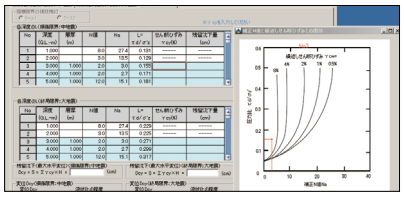
■損傷限界、終局限界の地震時、液状化の判定を行い、液状化が生じない改良目標N値を算定します。
■液状化に対する抵抗率FLを元に、液状化指数PLの計算を行います。
■損傷限界、終局限界で液状化による沈下量を計算し、液状化の程度の判定を行います。
■地層数は50層、N値は80個まで設定できます。

スクリーンショット

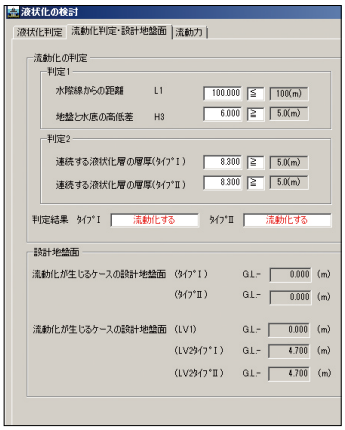
●N値データ入力画面(道示)



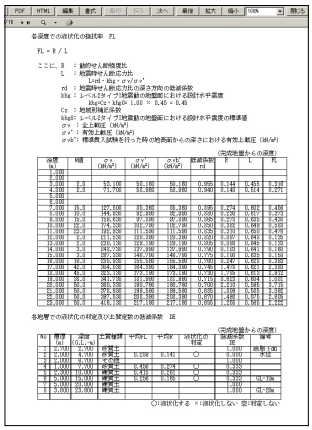
●計算結果画面(建築)



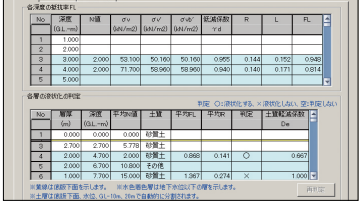
●計算結果画面（道示[流動化判定・設計地盤面]）



●印刷プレビュー画面（道示）



●計算結果画面（道示(液状化判定)）



●計算結果画面（道示（流動力））